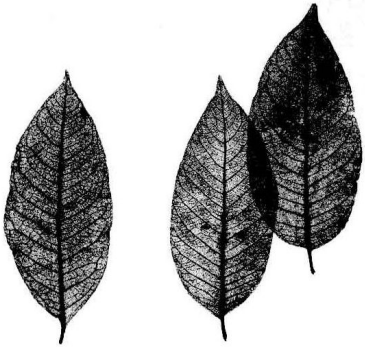
叱る、だけど怒らない

永六輔

知恵の森文庫



叱る、だけど怒らない

永　六輔

2004年10月15日 初版 1 刷発行

発行者──加藤寛一
印刷所──慶昌堂印刷
製本所──明泉堂製本
発行所──株式会社光文社
〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6
電話　編集部(03)5395-8282
販売部(03)5395-8114
業務部(03)5395-8125
振替　00160-3-115347

©rokusuke Ei 2004
落丁本・乱丁本は業務部でお取替えいたします。
ISBN4-334-78311-2 Printed in Japan

㊐本書の全部または一部を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

叱る、だけど怒らない

永　六輔

知恵の森文庫

光文社

この作品は知恵の森文庫のために書下ろされました。

目 次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erto

第一章　言偏（ごんべん）……7
第二章　人偏（にんべん）……37
第三章　病（やまい）だれ……79
第四章　肉（にく）月（づき）……107

第五章　立心偏（りっしんべん）……133
第六章　木偏（きへん）……163
あとがき……200

第一章　言偏（ごんべん）

ことば、話し方、言い回し

「紫陽花(あじさい)や　重なり合って　枯れゆけり」

「六丁目」（永六輔の俳号）の二〇〇三年最優秀の句です。紫陽花は花が大きくて美しいけれど、重たそう。枯れるときには頭(こうべ)をたれるように、花と花が重なってしまいます。ちょうど日本を代表する大銀行や大企業が、重なり合うように倒産したり、合併する姿を想像させます。

○

「渋柿が急に甘くなりだしたようなもので、時が満ちてごく自然に」と、寺の跡を継いで僧侶になった気持ちを語ってくれたのは、芥川賞作家の玄侑宗久(げんゆうそうきゅう)さん。

玄侑さんが副住職をつとめる臨済宗福聚寺(りんざいしゅうふくじゅうじ)は、福島県の三春町(みはるまち)にあります。滝桜

で知られる町です。滝桜の娘みたいなのが福聚寺の庭にもある。樹齢四百数十年を超すという枝垂桜。ほかに大正五年に寄贈された染井吉野が三五〇本ほどあって、「春には禅寺とは思えないほど、艶な眺めになります」と。

「学校では〝目標を設定してそれに向かって努力せよ〟と教え過ぎるから、失敗したときに辛い思いをする」と、玄侑さんは自分の経験から言います。

「人生に目標なんて立てられない。立てても失敗することが当たり前。寄り道のなかで楽しさや意義を見出していくような人生こそ、意味があるのだと思う」。いろいろ悩んで失敗もしたこういうお坊さんにこそ、あの世へ看取ってほしいと思います。

○

浄瑠璃の豊竹咲大夫さん。昔あった阪急ブレーブスの大ファンでした。理由は？と尋ねたら「はんなりしているから」と。このはんなりが東京人には理解できない美

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erto

意識。色気があって、たおやかで、優しくて。

咲大夫さんのお父さんが、菩提寺の住職さんの声の良さを称えて「文楽の大夫にしたいような声」と言ったそうです。そういえば、昔は職業ごとに声の質、良さがありました。魚屋さん、八百屋さん、御用聞き、金魚売り、市のセリの声、お坊さん。聞いただけですぐに「あのオジサンだ」と分かる声。最近は少なくなりました。

○

「声が大きいだけでは、舞台では映えません。よく通る声でなくては」と咲大夫さんは言う。亡くなった噺家の古今亭志ん朝さんは、高い音域でも澄んでよく通るきれいな声でした。咲大夫さんの声は、邦楽でいうと呂の声という低い声。バリトンでいながら、上のテナーも下のバスも出せる、オペラでいえばすべての音域を持つのが義太夫の声です。子どもの声、おじいさんおばあさんの声、若い盛りの女の声をすべて一

人で演じ分ける。一人でオペラをやっているようなものです。

○

街のおすし屋さんの屋号によくあるのが「弥助」。いたずらっ子や腕白な男の子のことを、「ゴンタ」と呼ぶ。どちらも『義経千本桜』に出てくる、役の名前です。義太夫や歌舞伎の話に出てくる名前だと、江戸時代の庶民はきっとよく知っていて、暮しの中で使っていたのでしょう。生活の中に残る、芸能の痕跡。

○

咲大夫さんが東京の僕の番組に来てくださるようになって、もう十年以上。初めの頃は「切符、あります」「観に来てください」と懸命に宣伝をしていた文楽も、最近はアッという間に、即完売。

「東京は本当にありがたいです。それに比べて本拠地の大阪は、タイガースばかりに人気があって、文化の面ではちょっと東京に……」と、最後まで語らずとも通じるほど地元は上方文化への関心は低い。咲大夫さんも僕もそれが悔しい。タイガース人気から生まれる経済効果は大事だけれど、文楽もね。

○

「め」という音は、朝の起き抜けなどは声に出にくいそうです。そこで文楽の楽屋では朝からしきりに「かーめーちゃん、かーめーちゃん」と大声で呼ばわっている。亀井さんを呼んでいるのではなくて、「め」の声を出す練習をしているんですね。

○

とうとう国会議員を辞めた大橋巨泉さん。

「小泉さんが首相になった当時は分かりやすいとか、他の派閥の親分とは違うというので国民的な人気も出たけれど、根本は狡猾で冷酷な政治家だね。このふたつの特質は政治家に一番向いているというか、必要なものらしいよ。永ちゃんや僕みたいな熱情派で一本気な人間には、政治家は向かない。オレたちお互いに、自分の理想が追求できない世界だと悟ると、怒って『辞めます』ってなるだろう？　それじゃやってけないんだってさ」

誰とは言いません。その狡猾さの例をひとつ。

「政治家に『Aですか？』って質問するでしょ。すると、『Bではありません』って答えるの。これ、はぐらかしでしょ」

良い子は真似しないように。

普通の世界ではあまり褒めた表現とはいえない狡猾・老獪・冷酷が、政治の世界では絶賛される特質。ちょっと寂しい気がする。ただ、「何を得るために狡猾で老獪で

冷酷に振舞うのか」そこが大事かもしれない。

たとえば、他国に占領された状態で、国民の安全と命を守るために、占領軍にひれ伏した振りをする、という政治家もかつてはいないわけではなかった。難しいことだけど。

辞めた巨泉さんに、相変わらず「もっと日本の政治のおかしなところを指摘して、叱り続けてください」という激励が来ている。そうだと思う。本人は「永ちゃんも僕も、もう七十だからね、長くはないよ。若い人にもっと元気に発言してもらわないと」と言ってます。

○

俳優の加藤武さんは江戸っ子。べらんめえもてやんでえも得意な、江戸弁の名人です。その加藤さんがいままで一番発音しにくかったのが、テレビ映画の吹き替え。

役は『刑事マクロード』の警察の上司。「おい、マクロード、（出張は）コロラドだぞ」という台詞の「コロラドだぞ」の部分がどうしても言えない。

聞かされた僕も、言えない。あなたも声に出してみて下さい。

こういう「発音しにくい言葉や文章」を、ラジオで募りました。やってみて、しまった！　と思いましたね。来るわ、来るわ、デスクの上に山のように集まった発音しにくい言葉。それを紹介するのはアナウンサーの試験以上に難しい仕事になりました。

あまり大きな声では言えませんが、「勤めている会社の名前が言いにくい」というお悩みも。ハッキリ書いてはいけないでしょうが、たとえば、「〇〇土地建物」とつく不動産屋さん。「トチタテモノ」って、発音しにくい。それから「かもめプロペラ」という会社。電話を受けた奥さんは、てっきり「カメメペラペラ」という変わった社名のところだと思ったそうです。奥さん、あなたは正しい。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erto